



ちいささえ愛

甌まごころ新聞

令和6年10月発行 第5号

コロナに負けない!



(上写真) 閉店後の茶話会で盛り上がる「ふれあい市」のみなさん

里町には30年以上続く「ふれあい市」があります。高齢者だけで営む朝市です。

コロナ感染の拡大やメンバーの高齢化もあり、ここ数年、お店は閉店になっていましたが、今年再開されました!

「コロナで長く休んでいたけど、やっぱりこの市が無いとみんなの顔も見れない!」

「こうして顔を見て話すだけでも、市を再開して良かった~」など、店じまい後の『お茶会』は盛り上がっていました。

コロナ禍で途絶えかけていた地域の「集いの場」が復活したことで、仲間との「つながり」を再確認し、さらには互いの「見守り」や「いきがい」作りにもつながります。

復活した「ふれあい市」。今後の活動がどのように広がるのか楽しみです。



ふれあい市 復活です!

休止の危機を乗り越え、誰一人取り残さず全員で取り組む「かっころばん体操」遊友体操教室



(左写真) 教室立ち上げ直後の写真。先生のビデオ映像を映し、体操を覚えました。

(右写真)「はんとけん体操フォーラム」にオンラインで参加する教室の皆さん。

上甌町でかっころばん体操(ころばん体操)をしている最高齢チーム「遊友体操教室」は、メンバー全員が80歳代。男性1名・女性7名の8名でがんばっています。

唯一の男性はもうすぐ90歳。世話役の「トシミさん」84歳です。グループに「事件」があったのは今年4月。トシミさんが腰の手術で入院されることになったのです。

これまでトシミさんに頼り切りだったメンバーは、入院の報せに途方にくれ、「体操止めようか?」との話も出るように。

それでも「トシミさんが戻ってくるまで、みんなで教室続けよう!」と決意。会場の鍵開けやDVD機器の操作、報告書の記入などを全員で協力し、退院までの約2か月間を無事、乗り切りました。

トシミさんも教室の仲間との再会を楽しみに、リハビリをがんばりました。

現在も全員で教室を運営されています。一人ひとりが役割を持ち、お互いに支え合う「集いの場」にもなっています。

地域でのお困りごとは 私たちにおまかせください



入江



神山



牧内

私たちは「地域福祉kizuna(絆)」のチーム名で「ささえ愛活動」に取り組んでいます。皆さんの地域の困りごとは何ですか。私たちと一緒に考え取り組みましょう!

発行: 薩摩川内市社会福祉協議会 甌島支所
編集: 上甌地域担当
第2層生活支援コーディネーター 入江
ささえ愛推進員 神山・牧内
電話: 09969-3-2880

社協の最新情報は、二次元コードからアクセスください



▲ ホームページ



▲ インスタグラム



▲ フェイスブック